

あなたはどう思いますか？

閉鎖されている「八幡市民会館」について

地域・市民の皆さん、利用してきた方々
と一緒に考え合い、声を届け、
まちづくりを！

▼八幡東区を「どんな町にしたいですか？」～地域の歴史と文化を受け継ぎ、子どもたちや若い世代が住みたくなる町にしましょう！▼八幡市民会館の閉鎖について、多くの利用団体は納得していません。▼八幡市民会館について、「まちづくり」とあわせて考え合う場が必要です。

市立八幡病院の移転で、どうして「市民会館が閉鎖」に？

▼市民会館の閉鎖は、八幡の歴史と文化を顧みない決定です。▼まちの賑わいを失わせて、八幡東区の活性化を妨げているのではないのでしょうか。

裏面に「当会の目的」「これまでの経過」を掲載しています。ご覧ください。



八幡東区のまちづくりの拠点に！

▼八幡大空襲からの「戦災復興都市計画」＝八幡駅前から50メートル道路を通り、ロータリーを囲んで皿倉山を背景とする八幡市民会館（解体された図書館も）まで＝は、「防災・文化・平和」をコンセプトとした最先端のまちづくりによる景観で、鉄の町八幡の象徴です。▼北九州市の西部地域に1,000人以上収容できるホールが皆無となっていることは、町の活性化を妨げています。▼世界遺産に登録された八幡製鐵所・旧本事務所とのつながりを活かすことで、大きな観光資源となり、文化あふれる八幡東区として、活性化できるのではないのでしょうか。

貴重な歴史的・文化的価値

▼八幡で育ち現小倉工業高校を卒業し、八幡製鐵所勤務を経た文化勲章受章の著名な建築家・村野藤吾氏の作品です。▼ホールの天井は星空をイメージし、側面の窓はピアノの鍵盤を模すなど、随所に素晴らしい意匠が凝らされ、音響の良さは全国に知られています。▼八幡大空襲からの復興と鎮魂の地（小伊藤山公園）を見守るシンボル、駅前からの景観の中心となる存在です。

市民の文化・芸術活動の拠点

▼事務室横の「染色室・工芸室」は、市民のアトリエです。自宅で取り組めない大きな作品の制作もできて、多くの市民芸術家を輩出しています。▼「美術展示室」は作品発表の場として、市民の文化・芸術活動を後押ししてきました。

八幡市民会館の活用を求める連絡会

代 表：竹下秀俊 [元九州共立大学工学部建築学科教授]
事務局：北九州市八幡東区大谷 1-3-6-801 加来浩信 方
連絡先：090-6297-9009(加来) 090-9563-3815(三浦)